

25 高札場跡(若林)(こうさつばあと)



若林町

幕府や領主が決めた規則や掟などを木の札に書き、人目につきやすい場所に掲げて村人達に告知していました。木札は高さ2間(約3.6m)、横1間(約1.7m)、縦0.6間(約1m)ほどありました。



地域愛称マップ

か み

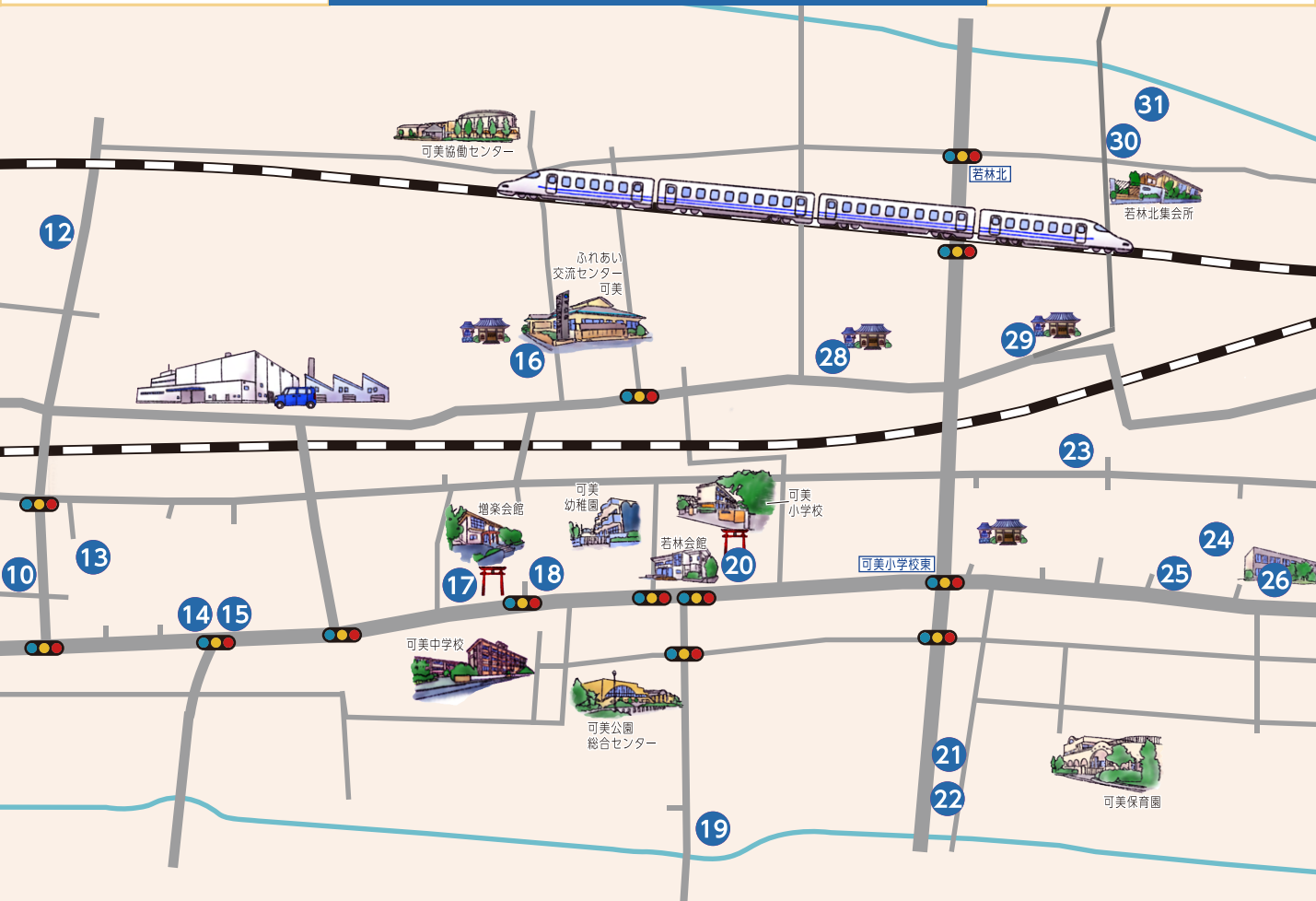
可美地区

26 可美小学校跡(かみしょうがっこうあと)



若林町

明治6年(1873年)高塚学校創立後、増家、若林と校地は変更されましたが、明治41年(1908年)から昭和22年(1947年)まで、この地に可美小学校の前身である若林尋常小学校・可美尋常小学校、可美国民学校がありました。



27 東海道の松並木(とうかいどうのまつなみき)



若林町

慶長9年(1604年)、江戸幕府は日本橋を起点に五街道を整備し、主要道に松や柳を植えさせました。これによって往来する人々は、道に迷わず、風や日差しを避けたり、休息もできるなど大変便利になりました。可美地区も多くの松並木がありましたが、昭和15年(1940年)頃より高塚から東若林に至るおよそ半里(約2km)の工事に伴い、北側の松は切り倒され、わずかに20数本が面影を残すだけになってしまいました。



28 威徳寺(いとくじ)



若林町

威徳寺は臨済宗方広寺派大通院の末寺で、康永2年(1343年)に建備宗立(けんどうそうりつ)禪師が開山しました。寺の過去帳によれば、本尊は延命地藏菩薩で、安阿弥(あんなみ)大仏師がこれを作ったと記されています。第6世賢林宗泉(けんりんそうせん)禪師は、永禄8年(1565年)、不動尊 毘沙門天を威徳寺の鎮守として迎え、安置しました。境内には不動明王を祀った不動堂や、弁財尊天を祀った弁天堂があり、弁天堂の前には池もありました。また寺の敷地に「羅羅松」もありました。



29 能濟寺(のうさいじ)



若林町

永正元年(1504年)、高道遠(こうどうえん)和尚が小庵を結んだのがこの寺の始まりであると言われています。境内には2基の古い笠付きの墓碑があり、1つは「靈運院殿守隆盛大居士(れいいうんいんでんほうかみりんせいでいこじ)」とあり、三河の大崎(現豊橋市船渡町)の城主中島氏の祖、与五郎重次のことです。天正4年(1576年)に当寺へ奉られたとの碑文があります。もう1つは重次公より七代後の姫「芳樹院殿義山妙貞大師(ほうじゅいんでんぎざんみょうていたい)」の墓です。大正の初めにお稻荷様を招魂し、特に大祭時には近在からの参詣人で賑わい、寺前の道路には多くの露店が並んだといえます。



30 長島街道(ながしまかいどう)



若林町

若林から長島地区を通り、西伊場へ抜ける道で、堀留運河を渡る場所に長島橋がかけられています。この道は、可美地区、小沢渡・倉松地区の人々が伊場、鴨江、浜松中心部へむかう道路として利用されていました。昭和32年(1957年)頃、区画整理事業で道幅が広げられ舗装されたが、以前は幅2間(約3.6m)ぐらゐの細い道で、別名「二間通り」とも呼ばれていました。

